

日本人口学会編
『人口大事典』
培風館, 2002年, xviii+999pp.

『人口大事典』は、日本人口学会の創立50周年記念事業の一環として2002年に刊行された。1957年発刊の『人口大事典』(平凡社)から実に半世紀近くを経ての改訂となる本書は、1996年の企画開始から6年という時間をかけ、人口問題に関するトピックを体系だてて整理し、執筆者には133名が名を連ねる、まさに学会を挙げての大著となっている。

本文は8部24章から成り、各章は8つの項目から成る。これらの項目は「ヒトの誕生と先史時代の人口」(第1部1-I)に始まり、「移民送出国から移民受入国へ」(第8部24-VIII)まで192に及ぶ。1957年版刊行当時とは人口現象・人口問題そのものも、それを取り巻く社会情勢も大きく変化した。それは両版の目次に並べられた項目の違いにもよく現れている。例えば上述の最終項などは、1957年版が「XI 海外移住」として在外邦人や日本の海外移住政策に1章を割いていたのと対照的である。また、国内・国際人口移動や地域人口の構造や変動についての解説(第6部)が大幅に増加しているのも特徴的といえるだろう。人口問題・人口学の主軸をおさえつつ、周辺にある膨大な事項を網羅的にとらえ、さらに過去・現在・将来といった時間的要素を受けながらの項目の取捨選択と体系的整理は大変な作業であったろう。

筆者の関心領域について述べると、まず「12. 人口モデル」(第4部)や「15. 家族と世帯」(第5部)といった事項が1つの章としてとりあげられ、内容もより具体的になった。前者では、マルサス・モデルから健康・疾病・死亡モデル、人口・資源・環境モデルに至るまで、多様なモデルが数式を豊富に用いて簡潔に解説されており、読む者の新たな研究への刺激となる。また後者は、世帯統計や家族類型、家族ライフコースといったテーマに加え、家族の「進化」に始まる歴史的経緯や文化的背景、世界の家族など多岐に渡る解説で、家族・世帯を巡る一連の記述として読み応えがある。

また、第8部「人口政策」では、先進諸国、発展途上諸国の多数の事例が具体的に記述されており、各国の特色などが比較しやすい。このほか、第3部「人口思想と人口学説」はいわば「人口学の基礎」的内容であるが、人口学の各分野について明解に記した「9. 人口学とその構成領域」(第3部)などは、様々な立場の読者それぞれに面白く読める内容である。

巻末には主要な人口関連の統計表とともに、主要な人口関係機関のリストが説明付きで掲載されている。1957年版にあった主要参考文献リスト(一部には簡単な解説が添えられていた)は姿を消したが、代わって人口関係の年表が掲載されており、事実の確認に便利である。事典としてはもとより、資料集としての有用性も高い。133名の執筆者による192にのぼる項目の解説は、当然トピック間に記述の重複もあるが、言い換えれば、それぞれのトピックは適度な独立性をもっており、どこからでも読み始められる。本文中には必要に応じて参照箇所も明示されており、関連事項の検索が容易である。また、図表も豊富に挿入されており、入門者などにはとくに理解の助けとなる。実務的な手引きとしてだけでなく、読み物としても幅広く活用されることであろう。

これだけの労作に対して贅沢な注文ではあるが、21世紀の事典としては、特に人口統計や年表、人口地図などについて、インターネットを通じて最新情報の提供が行われると利便性が一層高まるし、一般への啓蒙の効果も増大するのではないだろうか。また、利用者としては、なんらかの形で次の改訂までの増補版といったものの提供を是非検討していただきたい。それはまた、新しい利用者を獲得することにもつながろう。

本書は人口学大事典ではなく人口大事典である。人口学の枠を超え（あるいは可能な限り広げ）、より広範・総合的な人口問題をあつかうテキストとして、研究者や行政担当者等の専門家ばかりではなく、多様な利用者・読者が想定されている。昨今、巷間では「少子化」という言葉が再び大きな関心を呼び、人口減少社会に対する感覚も各所でようやく現実的なものとなりつつある。人口はいうまでもなくあらゆる社会問題のベースであり、人口関連の研究者はそれに対する総合的および個別的情報を提供する責務の一端を担っているといえる。本書は、人口現象あるいは人口問題についての正確な知識・情報の提供とともに、それらに対する世間の関心を喚起するのに大きな役割を果たすことだろう。本書の刊行に携わった多くの方々の尽力に敬意を表するとともに、本書がより多くの、そして多様な読者の目に触れ、各人がこれからの社会を考える一助となることを期待する。（小山泰代）

目 次

- | | |
|------------------|----------------------|
| 第1部 世界の人口－歴史と地理 | 第5部 家族と人口再生産 |
| 1. 世界人口の史的発展 | 13. 生殖能力と出生力 |
| 2. 世界の主要地域の人口 | 14. 死亡・寿命・健康 |
| 3. 日本人の史的発展 | 15. 家族と世帯 |
| 第2部 世界と日本の人口問題 | 第6部 地域人口と人口移動 |
| 4. 世界の人口問題 | 16. 国内人口移動と人口の地域分布変動 |
| 5. 日本の人口問題 | 17. 地域人口の構造と変動 |
| 6. 21世紀の世界の人口 | 18. 国際人口移動 |
| 第3部 人口思想と人口学説 | 第7部 人口の社会経済的諸側面 |
| 7. 人口思想と人口学説 | 19. 歴史人口の諸問題 |
| 8. 現代の人口思想 | 20. 人口の経済的側面 |
| 9. 人口学とその構成領域 | 21. 人口の社会文化的側面 |
| 第4部 人口統計と人口分析 | 第8部 人口政策 |
| 10. 人口統計調査の制度と方法 | 22. 先進諸国の人口・家族政策 |
| 11. 人口分析の方法 | 23. 発展途上諸国の人口政策 |
| 12. 人口モデル | 24. 日本の人口・家族政策 |